2021 年 12 月 20 日（月）　19:30~

議事録作成 玉置ゼミ 7 期生 下野綾巳

第 4 回　セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

▼事前の困りごと一覧

26. 相手の気持ちが分からず、出してきた過去。今自分が困ってきても誰も助けてきてくれない。嫌がらせも受けている。→周囲、本人への声掛け

27. ADHD があり、授業中でも、のりやボンドでの手遊びが止められない。周りはそれを見ているので直接嫌がらせをしたりはしないが、「汚い」イメージがつき、席移動して活動する際、その子の席に座りたがらない子が発生。→どう対処すべきか

28. 先生によって授業態度が違う。一人の子に対しての評価やエピソードが、ほかの先生と話が合わない。

29. 思ったことを口にしてしまう子への声かけ

30. 授業中に机の中に手を入れて、折り紙やのり、消しゴムなどを出していじってしまう子への対応

31. 子供達がクラスで声を出す時に声が出したくなる声かけや積み重ねの指導

32. 学級を締めていく 3 学期でもうひと段落子供達をレベルアップさせていく為にどうモチベーションを上げていくか

33. 登校しぶりの子が門まで来たが、学校に入れずにいる時の声かけの仕方

34. 何をやるにも、すぐに「だるい」と言ってしまう子への対応

35. 学習に対して意欲がない子への対応

36. タブレットを触るといろんな操作方法が気になり、辞められなくなってしまう子への対応

▼今回の困りごと

26. 相手の気持ちが分からず、出してきた過去。今自分が困ってきても誰も助けてくれない。

嫌がらせも受けている。
➡過去(小４)、周りに迷惑をかけていた。現在(小５)は、落ち着いたが、周りが過去のことを持ち出し、嫌がらせ等を受ける。教師と児童の信頼関係あり。

29. 思ったことを口にしてしまう子への声かけ。
➡「音楽の時間が一番だるい」と音楽の先生に言ってしまう。子どもに「思っても良いけど、口に出してはいけない」ろ指導しているが、すぐ忘れてしまう。

31. 子どもたちがクラスで声を出す時に声が出したくなる声かけや積み重ねの指導
➡返事や合唱の指導、みんなで声を出さなければいけない時に声を出せる子どもの育て方
全体として声をださせるためにどのような指導をすれば良いのか。
指導すればやってくれる。

33. 登校しぶりの子が門まで来たが、学校に入れずにいる時の声かけの仕方
➡小５の時に、保健室登校／給食登校
小６では、学校に来れるようになった。
保護者に校門まで送ってもらっても、自分のタイミングとは違うと行けない。
その時にどう声をかけるか。学校に入れなくても担任として何を伝えれば良いのか。

36. タブレットを触るといろんな操作方法が気になり、辞められなくなってしまう子への対応
➡タブレットの操作をやめられない。
タブレットをやめられない時は先生に返す。返せないから、取り上げる。
取り上げると泣いてしまう。
教科担任制により、タブレットの用い方はそれぞれ違う

▼子どもの周囲との関わり方
26. 相手の気持ちが分からず、出してきた過去。今自分が困ってきても誰も助けてくれない。嫌がらせも受けている。
➡過去(小４)、相手の気持ちが分からず、周囲に迷惑をかけていた。現在(小５)は、落ち着いたが、周りが過去のことを持ち出し、こんなに我慢をしていたのだ嫌がらせ等を受ける。教師と児童の信頼関係はある状態。

【和田先生のご提案】
〇小学校では、よくある事象
小学校３年生までは、体格が大きい子が強い。

小学校５年生頃になると、体型が同格になると「僕達は、こんなにも昔我慢していたのだ」と本困りごとのような事象が起きることがある。

〇疎まれる子どもに対する子どもの精神的発達

　小学校５・６年生は、精神的な発達の途中経過。「なぜ、自分ばかり我慢するのか」「先生知らないの？あの子はこんなことししていたんだよ。」とかまって欲しい。

　中学生は、「あの子はあの子」と受け入れるようになる。

【玉置先生・和田先生のご意見】

〇先生がどちらかの味方についてはいけない

　＝先生がしっかり話を聞く。

具体的な対応手順

　①周りの子の気持ちを汲み取る

　②本人の信頼を取り戻すために、行動を変容させていく手立てを明確にする

▼主体的な態度の評価

番外編.　主体的な態度の評価について。ある時はＡ、ある時はＣといった偏りがある場合

【先生方のご意見】

Ａをつける

・自分がＡだと思ったらＡ↔自分がＣだと思ったらＣ

Ｂをつける

・その子にＡをつけたら、全員Ａになってしまう

・学期毎や個人的な評価で行う

Ｃをつける

・単体の態度ＡやＣをつけ、総合で見るならＣ

・社会は甘くないという姿勢

【玉置先生のご意見】

Ａをつける

・先生がＡだと思ったら、Ａ。

・**評価＝子どもを伸ばすもの**

【和田先生のご意見】

A をつける

・評価＝子どものためにつけるもの

・A の態度の時、C の態度の時があるのならば、「先生は、A を貴方の本当の姿だと信じる」と伝える。

B・C をつける

・なぜその評価をつけたのかを伝える。子どもが納得すれば良い。

▼ネガティブ言葉への対応

29.　思ったことを口にしてしまう子への声かけ。

➡「音楽の時間が一番だるい」と音楽の先生に言ってしまう。子どもに「思っても良いけど、口に出してはいけない」と指導しているが、効果は薄い。

【他の先生方の本事例に対する質問】

Q１．他の子に対しても傷つけることを言ってしまうのか。

A１．言ってしまう。友達と揉めて「やってみろ〇〇」と言う。

Q2.　言葉の意味を分かってて言っているのか。

A２．言ってしまってから、「これは言ってはいけない言葉だったな」と反省はしている。

Q３．他の子は言い返すのか。

A３．言い返さず、先生に報告手を出すことはせず、先生に伝えるようにという指導。

【和田先生のご意見】

〇ネガティブ言葉の種類によって変容する指導

①**自分の心の内のネガティブ言葉**

「疲れた」「だるい」「しんどい」

②**他者に対する言葉**

人を傷つける言葉

【他の先生方の提案】

〇先生の気持ちを伝える**Ｉメッセージ**

「先生、それは傷ついたな」「先生、それ嬉しかったな」

〇先生が子どもの間に入るタイミングの重要性

〇コミュニケーションの対策
その子が「何を伝えたかった」かを明確にする。
それって本当に友達に伝わるのかな？

〇①自分の心の内のネガティブ言葉 への対応例
人間は自分の発した言葉を聞いて、その言葉通りに行動するんだよ。(脳科学的な視点)

〇①自分の心の内のネガティブ言葉 に寄り添う
かまってほしいから「だるい」と言っている。横の目線で積極的に関わりを持つ

【和田先生のご提案】

具体的な対応手順
①ネガティブ言葉は、表面上の意味であることを捉える。
②原因を探る。
具体的に、「どの教科のどの項目の際に」ネガティブ言葉が出るのか知る。
③子どものネガティブ言葉に翻弄されず、本質見抜き、対応を検討する。

〇高学年になると「どうせ」というネガティブ言葉が出る
「未来のことなんて分からない」という姿勢で対応する

〇言葉が大切ではなく、誰が言うかが大切だ
ネガティブ言葉の対応だけに留まらず、教師の指導に対し「この先生が言うのだから」といった誰かの一人に教師がなれると良いなという願い。

【玉置先生のご意見】
〇I メッセージ
子どもに対して、説得は無理である。
その人との関係性が重要である＝子どもが先生をどう思うかが大切

31. 子どもたちがクラスで声を出す時に声が出したくなる声かけや積み重ねの指導
➡返事や合唱の指導、みんなで声を出さなければいけない時に声を出せる子どもの育て方
全体として声をださせるためにどのような指導をすれば良いのか。
指導すればやってくれる。

【他の先生方の意見】
・返事や挨拶は、先生によって力のかけ方が相違し、いざ自分のクラスに戻るとできていないと感じてしまう。
・挨拶等の発声に重きをおいて指導していない場合、中頃から指導形態を変更することは難しい。（子どもが気づき、先生に対し不信感を持つ可能性あり）
・他のクラスと比べて、うちのクラスは、、、となる場合がある
・先生自身の中でできてないという部分がある。
・主任の先生を見習いたいと前向きに捉える。

【和田先生へのご提案】
〇**それぞれの学級の良さ**がある
それぞれの学級の良さを活かした仕事の割り振りを校長先生は、考えている。
自分の学級が持っているものを大切にしてほしい

〇**子どもと先生の信頼関係**
どのようなクラスであっても、子どもと先生の信頼関係が築けているかを見られる。
表面上の発声や列の乱れ等の問題よりも、子どもとの関係性を重視する。

例）体操座りの乱れに対して、肩にポンポンと手を当てて気づかせた時、先生の指導に対して子どもが嫌そうな態度を示すのか、素直に聞くのか。

【玉置先生のご意見】
〇なぜ「まえならえ」を指導するのか。＝教育観によるゆさぶり

33. 登校しぶりの子が門まで来たが、学校に入れずにいる時の声かけの仕方
➡小５の時に、保健室登校／給食登校
小６では、学校に来れるようになった。
保護者に校門まで送ってもらっても、自分のタイミングとは違うと行けない。
その時にどう声をかけるか。学校に入れなくても担任として何を伝えれば良いのか。

【和田先生のご提案】

具体的な対応手順
①会えて嬉しいことを伝える＝自分のことを見ていてくれていると子どもは感じる。
例）「おはよう、先生、貴方と会えて嬉しい」
②学校と関連しない雑談を話す

〇特効薬はない
保護者にもゆっくり進んでいくましょうと伝える

〇不登校の児童生徒の保護者は、卒業を目前とすると焦る

〇子どもが自分で予定を立てる
担任とは別に同じくらい自分を理解してくれる先生を作ることで、学校生活の予定を自分で立てられる。

36. タブレットを触るといろんな操作方法が気になり、辞められなくなってしまう子への対応
➡タブレットの操作をやめられない。
　タブレットをやめられない時は先生に返すという約束をするが、返すことが出来ない。
　取り上げると泣いてしまう。
　教科担任制により、タブレットの用い方が相違している。
　学力レベルの高い児童。

【他の先生方のご提案】
〇他の課題を与える
学力が高い子どもであれば、個に応じた支援として、周りの生徒との関わりも見取りながら、別の課題を与える。

【玉置先生のご提案】
〇面白い授業をつくる
つまらないから、授業を聞きたいと思わないから、タブレットを触ってしまうのではないか。

〇AAC はよくある事例
知識・技能：A ／ 思考力・判断力・表現力：A ／ 主体的に学習に取り組む態度：C

〇共同学習の時に、話しているか
授業において、誰かの意見を踏まえ何を思ったかを発言させる等、「授業を聞いていないと答えられない発問」を用意するとよいのではないか。

【和田先生のご意見】
〇コミュニケーション能力
友達とコミュニケーションをとれているのか、勉強だけでは人間関係は築けない。

〇コミュニケーションを繋ぐ授業

子どもの発言を繋ぐ授業

〇学校では、友達との繋がりを

タブレットの使用は、家庭でも行う事ができる。

学校だからこそできることは、友達との関係づくり。